

和漢古典学のオントロジの資源化のために —『国書総目録』の分類について—

相田 満

1.はじめに

時代の画期やその時代の盛期が自覚された時、記念となるべきモニュメントを作り上げる営みは史上何度も繰り返されたことである。

書籍の世界でも同様である。現代でも何かを記念して大きな企画が実行されることが少なくないが、それらの中には、きわめて大規模にかつ長期間にわたって果たされたプロジェクトも少なくない。前代の知識を集成・整理する取り組みを通して、次世代への糧とする歴史的意義をともなうこれらの事業は、時に「老英雄法」などと呼ばれる、有為の才を文化事業に専心させることで、消耗させるという老練な政治手法の一環として採られたこともありはしたが、そうした取り組みにより残された文化遺産の恩恵は、建築などのモニュメントとは違って、後世の知的生活面において根底的な影響力を持つことが多い。

そもそも書籍という形に残される記念碑^{モニュメント}は、膨大な時間と費用と、一見無駄とも思えるばかりの人的資源の用材を必要とするにも関わらず、巨大な構築物の形をとる記念構築物と較べると、その成果物の容量はきわめてコンパクトである。しかし、それを開けばそこに注がれた労力は一目瞭然で了解し得るもので、それをなし得たスポンサー（多くは為政者）の本当の度量と栄華は、実はそうした類の成果物を通してはかり得るものかもしれない。

2.戦前の文化プロジェクト

近代日本の自我が最も拡大した時期を、第二次大戦（1941-1945）以前に比定する人は少なくない。その功罪はさて置き、地理的な拡大と同調するの昂揚した気運は、文化的な方面でもな気宇壮大な企画の案出・実行という形もあらわれている。

もともと、その中には戦火のために灰燼に帰したものも少なくない。しかし、その挫折にくじけることなく初志を貫徹し続け、戦後は文化復興の象徴として結実に至ったプロジェクト、さらには今なお継続中のものもあった。ここでは、古典学研究に関係深いプロジェクトについて紹介する。

まず漢文・漢学の世界では、『大漢和辞典』全13巻がよく知られる。大修館書店社長の委嘱により、諸橋轍次を主編とする、東京文科大学（→東京教育大学→つくば大学）と大東文化大学の両グループからなるプロジェクトチームが作られ、彼らを中心に、編纂開始以来35年の歳月と、のべ25万8000人の労力、及び巨額の経費が注がれて、1960（昭和35）年5月25日、『索引』刊行をもって完成したものである（第1版）。

また、目を海外に転じれば、『四庫全書』の続編として企画された『続修四庫全書』の編纂も、東方文化事業総委員会により構想された点で、日本側の発想に淵源をもつ企画といえなくもない（蒐集された典籍の一部は台湾中央研究院傅斯年図書館に蔵される）。

さらに国書の世界では、『国書総目録』に結実したプロジェクトがあげられる。

2.1 『国書総目録』の成立と現状

『国書総目録』の成り立ちと現状を簡単に示す。

1939(昭和 14)年、慶応4年までに日本人が著編、撰訳した書籍(典籍を中心とし文書・記録類を含む)の情報が網羅された『国書総目録』は、当初辻善之助・新村出の指導の元、『岩波国書解題』として構想された。しかし、その雄大な構想ゆえに遅々として進まぬ編纂作業と戦災により計画は頓挫の危機を迎える。そして1957(昭和32)年、やむなく国書の総合目録編纂に方針は変更されることとなり、足かけ38年をかけながらも、1963(昭和38)年～1976(昭和51)年にかけて『国書総目録』は無事刊行の運びとなった。

その後、幾度も古書肆の飾り棚に据えられるほどの高値を呼ぶこととなったが、斯界の渴望に応えるために1989(平成元)年、新たに追加・訂正を施した「増訂版」が出された。それとともに、1990(平成2)年、続編にあたる国文学研究資料館編により『古典籍総合目録』(岩波書店)全3巻も上梓されて現在に至っている。

書籍としての『国書総目録』およびその続編の『古典籍総合目録』の略史は上記の通りである。しかし、その後両書は、データベースとしても生まれ変わり、所在情報を除いた、著作に関する全項目を収録する『国書 基本データベース(著作篇)』と『古典籍総合目録データベース』として公開されている。

これらのデータベースは、かつてはユーザIDとパスワードが求められるものだったが、2001年国文学研究資料館が著作権を岩波より買い上げたのを期に、現在は無料で一般公開されるに至っている。

2.2 『国書総目録』は古典学のナビゲーションたりえるか

国文学研究資料館が岩波書店から『国書総目録』の著作権を買い取ったことにより、その資源をいかに有効活用するかという課題を背負うと同時に、2004年度から当該機関が人間文化研究機構の一部門として位置づけられたことも契機となって、その分類の見直しも必要になってきた。

国書基本データベース(著作編)の検索

国文学研究資料館

利用のしかた [お知らせ\(更新情報等\)](#)

下の該当欄に入力し「検索実行」ボタンをクリックして下さい。

● データベース	著作データベース	<input type="checkbox"/>	検索実行	<input type="button" value="リセット"/>
● 著者名	<input type="text"/>	両方	<input type="checkbox"/>	含むもの <input type="checkbox"/>
● 作者名	<input type="text"/>	両方	<input type="checkbox"/>	
● 分類・年代	<input type="text"/>	両方	<input type="checkbox"/>	
● 全項目検索	<input type="text"/>	両方	<input type="checkbox"/>	
● 結果の表示	詳細情報を一括表示 <input type="checkbox"/>		ソート	Database出現順 <input type="checkbox"/>

[【ホームページ】](#) [【他のデータベース】](#) [【古典籍総合目録DB】](#)

[資料②] 「国書基本データベース」検索画面

冊)・教大(二冊)

恒例催方私記 こうれいほうしき 一冊 ㊦年中行事・
 記録 ㊦日野輝光編 ㊦宮書 *元禄一五・一六
 恒例臨時公事記 こうれいりんじき 一冊 ㊦年中行事・
 記録 ㊦押小路師資 ㊦内閣 *文化一二・一三
 恒例臨時公事抄 こうれいりんじしょう 六軸 ㊦年中行事
 ㊦内閣 *年中行事・恒例臨時公事之日録・東
 照宮奉幣・例幣記・春日祭参行人々之交名・明
 暦四年々々中公事を収む

[資料①]
 『国書総目録』記載形式

その取り組みの一環として、まずその分類がどのような性格を持つものを概観したい。

3.分類語の特徴

3.1.分類語一覧(<http://base4.nijl.ac.jp/%7Ekoten/bunrui.html>)

『国書総目録』の記載形式は、〔資料①〕の通りである。

掲示した資料からもわかるように、『国書総目録』には、採集した目録資料をもとに「類」という記号で分類が与えられている。

また、分類項目に記載されるデータも、「国書基本データベース」〔資料②〕に反映されており、現在では、データベースからも検索可能である。

〔資料③〕国書総目録の分類語一覧

大分類	小分類
〔総記〕	目録 書誌 書目 事典 索引 便覧 類書 叢書 雑集 新聞
〔学問〕・思想	思想 哲学 倫理 儒学 漢学 国学 洋学 蘭学 注釈 考証
神祇	神祇 神道 祭祀 祝詞 神社 社寺
仏教	仏教 縁起 和讃 悉曇 声明 天台 華嚴 真言 修験道 浄土 融通念仏 時宗 真宗 禅宗 臨済 曹洞 黄檗 普化 日蓮 寺院 寺社 寺誌
宗教	宗教 道教 キリスト教 俗信
言語	言語 国語 国語学 語学 文字 音韻 俚諺 俗語 方言 文法 辞書 節用集 字彙 語彙 辞 彙 外国語
文学	文学 物語 擬古物語 説話 説話集 歴史物語 軍記物語 鎌倉物語 室町物語 御伽草子 江戸小説 仮名草子 浮世草子 読本 滑稽本 洒落本 人情本 草雙紙 赤本 黒本 青本 黄表紙 合巻 読本 戯文 謎 咄本 講談 落語 実録 小説(明治) 随筆 評論 紀行 和文 文集 書簡 書簡集 書簡文範 漢文 漢文集 漢詩 漢詩集 漢詩文 詩文 詩文集 狂詩 狂 文 狂詩文 詩歌 詩歌文 詩歌集 詩集 詩歌連俳集和歌 歌学 歌論 歌集 歌文 歌文集 家集 歌合 連歌 連歌論 聯句 俳諧 俳論 連句 俳文 雑俳 川柳 狂歌 狂句 歌謡 神楽 歌 俗曲 俗謡 朗詠 宴曲 平曲
音楽・演劇	音楽 民謡 箏曲 楽器 楽器／琴 楽器／太鼓 三味線 尺八 楽譜 舞踊 演劇 芸能 神楽 雅楽 田楽 幸若舞 能 能の本 調曲 能狂言 狂言 間狂言 浄瑠璃 浄瑠璃評判記 奥 浄瑠璃 義太夫 大薩摩 半太夫 河東 常磐津 富本 清元 新内 一中 團八 正伝 繁太夫 宮古路 説経 長唄 歌舞伎 狂言本 脚本 絵入根本 番附 絵本番附 絵本番附／操芝居 絵本番附／からくり 絵本番附／見せ物 鬮石 役者評判記
歴史	歴史 通史 時代史 年表 藩史 雑史 災異 戦記 史論 伝記 言行録 年譜 陵墓 系譜系 図 家譜 家伝 紋章 文書 記録 日記 年代記 部類記 検地帳 雑記 雑録 花押 印章 外 国史
地理	地理 外国地理 地誌 案内記 細見記 評判記 外国地誌 漂流記 見聞記 探検記 地図 外国地図 絵図
政治・法制 〔附故実〕	政治 法制 制度 外交 外事 軍事 海防 消防 防火 訴訟 官職 補任 名鑑 武鑑 故実 有職故実 武家故実 儀式 祭礼 礼法 年中行事 調度 服飾 財政 租税
経済	経済 度量衡 貨幣
風俗・〔生活〕	風俗 伝説 風説書 怪談 怪異 奇談 家事 衣服 裁縫 手芸 理容 化粧 飲食 食物 住居 家具 育児 外国風俗
教育	教育 教訓 家訓 格言 心学 往来物
理学	理学 数学 和算 塵劫記 珠算 天文 曆法 曆 氣象 地質 岩石 物理 化学 工学 博物 館物 生物 動物 植物 魚介
医学	医学 薬物 本草 鍼灸
産業	産業 農業 園芸 畜産 獣医 蚕業 林業 水産 漁業 塩業 鉱業 鉱山 鑄造 工業 土木 測量 治水 建築 築城 城郭 造船 商業 貿易 交通 海運 船舶 航海 通信 物産 製紙 醸造 染織
芸術	芸術 美術 絵画 画論 図案 絵巻 絵本 画帖 画譜 考古 印譜 金石文 拓本 印刷 工芸 金工 木工 漆工 陶磁 彫刻 書画 書道 篆刻 文房具
諸芸	諸芸 茶道 造園 庭園 盆石 花道 香道 占卜 相法 陰陽道 易学 料理 玩具 遊猟 狩猟 釣魚 放鷹 鶴飼 犬追物 園鶏 相撲 打毬 蹴鞠 遊戯 囲碁 聯珠 将棋
〔武学〕・武術	武術 兵法 武器 刀剣 薙刀 馬具 劍術 槍術 弓術 馬術 柔術 火術 砲術 棒術 拳法 忍術

ところで、『国書総目録』の分類項目を考え直すためにはどうすればよいかという議論の中で、必ずといって出てくる意見が、「コンピュータを使つての検索が可能なのだから、分類・キーワードを複数持たせればよい」というものである。

しかし、これは誤解である。何となれば、『国書総目録』に記載される典籍の分類は、〔資料①〕に示す「恒例催方私記」や「恒例臨時公事記」のように「年中行事・記録」と二つの分類が並記されるものもある。このように、『国書総目録』の段階で、一つの書物に対して複数の分類を宛てるということにはなされているのである。

分類の内訳は、「国書基本データベース」の凡例として〔資料③〕に示されるとおりである。20門416目に分類されているが、「総記・学問・思想……」などで分けられる「大分類」20門の方は、「小分類」の416目のデータを『内閣文庫国書分類目録』の分類にしたがって、仮にあてはめたもので、データにはこのような分類は発生していない。そして、現在では、新規に追加された著作にも、この小分類の語が割り振られるのである。

また、『国書基本データベース』中で与えられる分類名（小分類名）には一意に弁別されており、重複する名称はない。そして、小分類の中は「楽器／琴」「楽器／太鼓」……のようにさらに2階層に分けられており、先の『内閣文庫国書分類目録』とを組み合わせると、このデータベースは全部で3階層からなる概念語体系によって成り立っているといえる。

3.2. 分類項目の問題点

『国書基本データベース』で与えられた分類項目は以上の通りである。

では、現在のデータの状態で、「分類項目」検索は、はたして有効に機能するだろうか。

結論的なことから言えば、現状の『国書基本データベース』における「分類」は完全なものではない。

その理由としては、大きく分けて次の二点が指摘できよう。すなわち、

①書名から明らかに分類名が推測できるものについては、分類名が省略されたこと

②分類が分野によって精粗ばらつきがあること

である。以下、それぞれの点について詳述しよう。

3.2.1 分類名の省略について

書籍形態であった『国書総目録』の時代には、紙数の節約と閲覧時のわかりやすさのために、見れば分かるというデータ掲出方法が採られていた。しかし、このような記述方針は、データベースとしての正確さ、規則正しい情報の配列の問題としばしば矛盾する。

ところが、残念ながら、現状の『国書基本データベース』では、書名等から明らかに内容がわかるために分類を省略しているものがあるが、その情報は十分に補完されていない。

そのため、たとえば「朗詠」という言葉だけで分類検索を行うと、現在ヒットする結果は次の1件だけという状態になっている。

【書名】 吟嚙録／巻一附／鴨川朗詠集草稿(がんげいろく／まきいちつけたり／かもがわろうえいしゅうそうこう) K1

【分類】 儒学 朗詠

ところが、書名に"朗詠"を含むものは、以下に示すものを含めて 128 件もあるのである。

WORK[8435]

【書名】和漢連珠朗詠(わかんれんじゅろうえい) K 1

【分類】漢詩 和歌

WORK[8446]

【書名】和漢朗詠国字抄(わかんろうえいこくじしょう) K 1

【分類】歌謡 注釈

… (以下略) …

総じて「朗詠」「和歌」など、書名を構成する形態素の中には、その分類を象徴する概念が含まれることが多い。このことは、かなりの確度で首肯できるので、機械的な処理で情報付加を行えば事足りるかもしれない。ところが中には、

WORK[48157]

【書名】土佐日記(とさにっき) K 5

【巻冊】一冊

【分類】浄瑠璃

【成立】宝永五序

【著作注記】〈般〉土佐少掾橘正勝正本。

のようなものもある。

これは、上記【著作注記】にも示されるように、浄瑠璃全段を収録した正本の題名で、日記とは無関係のものである(外題「土佐日記 土佐少掾直伝」、表紙見返には「廿八芳野たいり」と六段本目録が付される)。機械処理のみに頼ろうとすると、このようなものまで「日記」として類別される可能性がある。

しかし、書名標題中に含まれる語句を指標として内容を類別する試みは自体にはそれなりに意義があることといえよう。それどころか、それぞれの語句にどのような意味や分類意識が込められているのかという分析を網羅的に試みることが、書物の体系・命名意識をさぐるための基礎作業としての第一歩であろう。

そして、その作業とあわせて、データベースに欠落する分類名の補完がなされることが必要ではなからうか。

3.2.2分類の標準化の動向とオントロジ

現在の通行の分類名および類別方法は、いわば近代的精神の発露によるものといえようが、おおむね過去の学問体系は、現代のように専門的な分化が十分にほどこされているわけではなかった。しかし、そうかといって、現代日本で一般的な理解を得ている学問分類がどれだけ普遍的でかつ永続的なものであるかという保証もない。

たとえば、東欧チェコでおよそ 600 年の歴史をもつカレル大学の学問体系は、総合学術的領域であった哲学から、数学、理学などの独自の学問体系を獲得した学問領域が分化して行き、残った雑学のような学問領域が哲学に組み入れられてしまっているものという認識を持っている。その中で「文学」は、講座として自立可能な基盤が整っていないために、今なお哲学の領域にとどまらざるをえないという状況にある。

「哲学」は、すべての学問の根源であるといえれば聞こえは良いが、その背景には、学生数などといった講座設立・維持のための事情も影響している面も否定できない¹⁾。

また、近年は情報学の発展がひとつの契機となって、「文理融合」、「学の融合」も活発になりつつある。そのような状況で起きつつある問題が、分野間における学術用語や概念のズレである。そして、この問題は、国際化という動向も絡まってさらに複雑な様相を呈し始めている。

人文科学系の研究分野で顕在化しはじめた、この問題の解決のために、化学の分野から標準化の動きが起こりはじめ、1985年ごろ当時の文部省より、学術用語・キーワードを全分野で整備しようという働きかけがあった。しかし、日本文学研究をはじめとする多くの人文系領域では、いまだに十分なコンセンサスを得る状況に至っていないのが現状である。

しかし、それぞれに長い歴史を持つ研究分野を横断する標準的な分類概念を構築することが果たして可能だろうか。その解決の一便法として、データベースにおいて最低限の了解事項（コンセンサス）を規定して、横断的検索を実現しようとする試みが進んでいる。

代表的なものに図書検索に際して、検索項目を共有して持つダブリン・コア (Dublin Core) と、その検索手続き（プロトコル: protocol）の共通化をはかる Z39.40 などがある。

また、その対極的な手法として、統一化・標準化という方向に向かうものではなく、それぞれの専門分野、知識体系を尊重して、その知識概念樹を収集し、組み合わせることによって、それぞれの特性に合わせた検索・分類体系を実現しようとする試みもある。それが語彙体系としてのオントロジ (Ontology) である。

本プロジェクトの枠組みとなっている「東アジア」という地域に包含される各専門分野間においても、用語・概念の差異は決して小さくはない。そうした動向を踏まえた上での書名を構成する形態素に着目して分析を行う試みは、人間の知的営みを書物の編纂意識と文化の継承意識のあるがままの姿を再検証し、整備する試みの一環に他ならず、それはまた情報資源としてのオントロジ収集への取り組みという意味でも重要な手続きとなる。

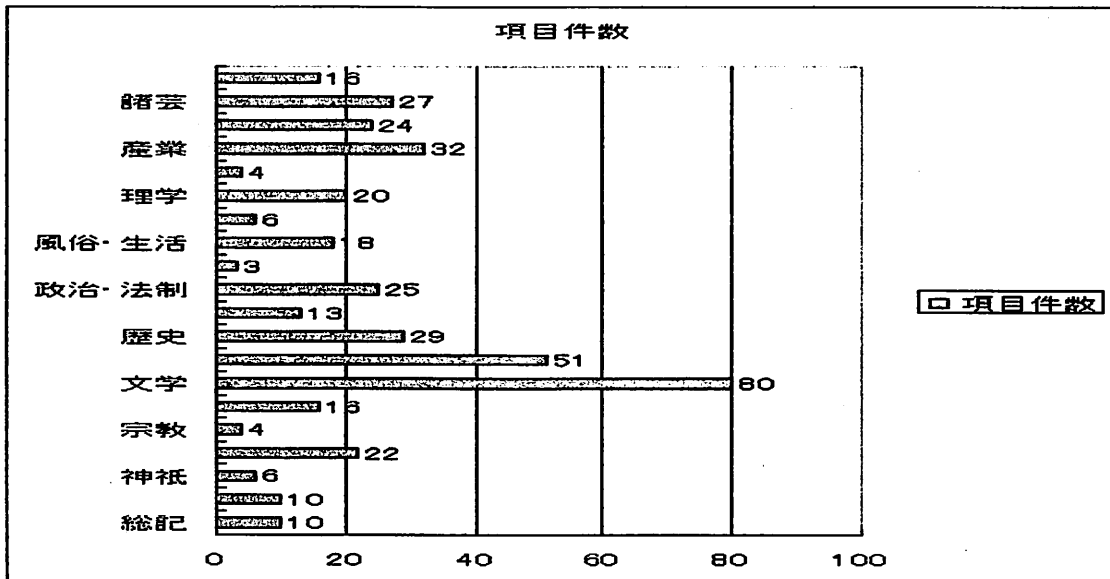
3.2.3 『国書総目録』の分類の分析

①材料と方法

『国書総目録』のデータベース化が果たされたことは、日本の古典籍の総体（一面的な観点であることには留意しておくべきだが）を網羅的に検証し分析することを可能としたが、それを情報資源として活用するための潜在力^{ポテンシャル}を生かし切っているとはいえない状況にある。今後の新たな展開（利用法）は、アイデア次第という段階にあるが、一方で、データベースとしての長所を活用可能とするデータの作り方（情報の追加や切り分け方）も期待されよう。

その一端は「分類」という点にも顕著に現れている。では、現状のデータにおいて、分

*1 相田満「カレル大学視察報告」（科学研究費基盤研究(S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」2003年度研究成果報告書[代表：安永尚志（国文学研究資料館）]）



〔資料④〕『国書総目録』収載著録の分野別比率

類語各語がどのようなものであるかについて、簡単に調査を試みてみよう。

調査に際しては、当館より公開される『古典籍総合目録データベース』を使用し、具体的な手順としては、〔資料③〕に示される「小分類」語を使用した検索作業を繰り返し、そのヒット数を集計するというものである。

②結果と考察

結論から言えば、「大分類」項目は、『国書総目録』に記載される分類概念語を、内閣文庫目録に準拠して再配置した暫定的なものであるということを割り引いて考えても、『国書総目録』はきわめて文学的傾向に傾斜した分類目録であるといえよう。

このことは〔資料③〕を一見するだけでもわかるように、文学という大項目の内訳は80項目もあって、圧倒的に多い。対して、非常に粗い分類になっているのが宗教である。神社、仏教を主としてそれ以外の宗教が4つにしか分けられていない。他にも理学、歴史、医学など、現代日本の科学の状況を考えてみても、その基層を作り上げた近世以前の資料には「分類」の手が加わっていないことがわかる。逆の見方をすれば、こうした過去の学問の蓄積を再検証することに、今後の研究の進展が求められている。

採択されるデータ件数においても「文学」項目が第1位にあるのは、こうした古典籍の調査に携わってきた人々の専門分野がその方面に集中していたからであるが、今後は様々な分野からこれらの書に対して分析の手が入ることが期待されるだろう（稿者が相談を受けた範囲でも天文資料や地震資料などの分野で、史料の掘り起こしやデータベース化が進みつつある）。

また、「文学」は1,020件と数字的には最もよく分類が行き届いているかのように見えるが、「俳諧・和歌・漢詩・漢詩文」といった項目はまだまだ細分化が不十分といえる。また、項目は立項されていても件数がきわめて少数のものも数多くあり、今後の見直しが必要と判断される。

さらに、『国書総目録』には、「仏教聖經」「漢籍・和刻本」「文書類」が採られていないことにも注意を払っておくことが重要である。近世以前の日本人が目につれた典籍・文

書類は9割近くが漢文であったと推定されるのだが、『国書総目録』の採録趣旨は、あくまで日本人の著作にかかる「書物」であったため、実際に流通していた文字資料の一部しか扱われていないのである。このことは、常に念頭に置かれるべきであろう。

最後に、慶応年間以前と以後の枠組みで画然と分ける分類方法には本当に意味があるのかという問題がある。たとえば台湾では日本統治以前の資料全体が古典という枠組みとなっており、それなりに機能しているように見える。

しかも、日本においても「古典」はいつまでの時代のことをさすのか、その物差しも世代が変われば当然変化するわけで、今後新たなパラダイムの枠組みで生み出される分類語、変化する基準も今後発生することだろう。

言葉が変化するのと同様に、分類も変化する。そのことは過去の「文学」概念と現在の「文学」概念の差を窺っても自明であるように、すべてのことに及ぶだろう。

要は、そうした言葉や概念は変化するということを受け止めた体系化を心がけることが今後は必要になるのではないかということである。

情報学における「オントロジ」という概念は、現代における個々の専門分野における知識セットを尊重する立場で発想されたものではあった。しかし、それ歴史という時間軸においても発揮されるべき価値を持つ。

(本稿は「東アジアの出版文化」ニューズレター 8,2005年3月掲載原稿に加筆したものである)

No.	大分類	項目件数	件数/総件数	小分類件数計	1項目宛データ数
1	総記	10	2%	3,861	386
2	学問・思想	10	2%	14,582	1,458
3	神祇	6	1%	19,484	3,247
4	仏教	22	5%	71,403	3,246
5	宗教	4	1%	720	180
6	言語	16	4%	5,622	351
7	文学	80	19%	79,572	995
8	音楽・演劇	51	12%	28,747	564
9	歴史	29	7%	59,701	2,059
10	地理	13	3%	10,543	811
11	政治・法制	25	6%	34,695	1,388
12	経済	3	1%	4,121	1,374
13	風俗・生活	18	4%	1,359	76
14	教育	6	1%	6,872	344
15	理学	20	5%	21,045	5,261
16	医学	4	1%	14,617	457
17	産業	32	8%	7,130	297
18	芸術	24	6%	8,264	306
19	諸芸	27	7%	10,018	626
20	武学・武術	16	4%	14,099	34
※総計		416		416,455	1,173(平均)

[資料⑤] 『国書総目録』 収載著録の分野別比率

別表A 各小分類項目の統計分析(総表)

No.	大分類	項目件数	件数/総件数	小分類件数計	1項目宛データ数
1	総記	10	2%	3,861	386
2	学問・思想	10	2%	14,582	1,458
3	神祇	6	1%	19,484	3,247
4	仏教	22	5%	71,403	3,246
5	宗教	4	1%	720	180
6	言語	16	4%	5,622	351
7	文学	80	19%	79,572	995
8	音楽・演劇	51	12%	28,747	564
9	歴史	29	7%	59,701	2,059
10	地理	13	3%	10,543	811
11	政治・法制	25	6%	34,695	1,388
12	経済	3	1%	4,121	1,374
13	風俗・生活	18	4%	1,359	76
14	教育	6	1%	6,872	344
15	理学	20	5%	21,045	5,261
16	医学	4	1%	14,617	457
17	産業	32	8%	7,130	297
18	芸術	24	6%	8,264	306
19	諸芸	27	7%	10,018	626
20	武学・武術	16	4%	14,099	34
※総計		416		416,455	1,173 ←平均

1		件数
[[総記]]	目録	599
[[総記]]	書誌	307
[[総記]]	書目	1970
[[総記]]	事典	74
[[総記]]	索引	593
[[総記]]	便覧	112
[[総記]]	類書	73
[[総記]]	叢書	85 ←叢書雑集
[[総記]]	雑集	6 ←叢書雑集
[[総記]]	新聞	42
		3861

2		件数
[[学問]・思想]	思想	119
[[学問]・思想]	哲学	18
[[学問]・思想]	倫理	54
[[学問]・思想]	儒学	361
[[学問]・思想]	漢学	8321
[[学問]・思想]	国学	558
[[学問]・思想]	洋学	6
[[学問]・思想]	蘭学	7
[[学問]・思想]	注釈	3751
[[学問]・思想]	考証	1387
		14582

3		件数
[[神祇]]	神祇	1770
[[神祇]]	神道	4968
[[神祇]]	祭祀	4490
[[神祇]]	祝詞	104
[[神祇]]	神社	8143
[[神祇]]	社寺	9
		19484

4		件数
[[仏教]]	仏教	13799
[[仏教]]	縁起	95
[[仏教]]	和讃	9
[[仏教]]	悉曇	1133
[[仏教]]	声明	1079
[[仏教]]	天台	10842
[[仏教]]	華嚴	2
[[仏教]]	真言	18115
[[仏教]]	修験道	649
[[仏教]]	浄土	3304
[[仏教]]	融通念仏	32
[[仏教]]	時宗	118
[[仏教]]	真宗	8325
[[仏教]]	禅宗	1085
[[仏教]]	臨済	2070
[[仏教]]	曹洞	1476
[[仏教]]	黄檗	521
[[仏教]]	普化	53
[[仏教]]	日蓮	3373
[[仏教]]	寺院	4984
[[仏教]]	神社	336
[[仏教]]	寺誌	3
		71403

5		件数
[[宗教]]	宗教	155
[[宗教]]	道教	22
[[宗教]]	キリスト教	379
[[宗教]]	俗信	164
		720

6		件数
[[言語]]	言語	24
[[言語]]	国語	13
[[言語]]	国語学	1
[[言語]]	語学	1708
[[言語]]	文字	495
[[言語]]	音韻	956
[[言語]]	俚諺	41 ←俚諺俗語
[[言語]]	俗語	4 ←俚諺俗語
[[言語]]	方言	51
[[言語]]	文法	143
[[言語]]	辞書	1156
[[言語]]	節用集	334
[[言語]]	字彙	48
[[言語]]	語彙	255
[[言語]]	辞彙	5
[[言語]]	外国語	388
		5622

9		件数
[[歴史]]	歴史	69
[[歴史]]	通史	651
[[歴史]]	時代史	3
[[歴史]]	年表	211
[[歴史]]	藩史	177
[[歴史]]	雑史	2768
[[歴史]]	災異	1240
[[歴史]]	戦記	2300
[[歴史]]	史論	241
[[歴史]]	伝記	6898
[[歴史]]	言行録	6
[[歴史]]	年譜	35
[[歴史]]	陵墓	583
[[歴史]]	系譜	3664 ←系譜系図
[[歴史]]	系図	85 ←系譜系図
[[歴史]]	家譜	10
[[歴史]]	家伝	1791
[[歴史]]	紋章	196
[[歴史]]	文書	2998
[[歴史]]	記録	27046
[[歴史]]	日記	2076
[[歴史]]	年代記	241
[[歴史]]	部類記	858
[[歴史]]	検地帳	51
[[歴史]]	雑記	4346
[[歴史]]	雑録	14
[[歴史]]	花押	177
[[歴史]]	印章	658
[[歴史]]	外国史	308
		59701

7		件数
[[文学]]	文学	2
[[文学]]	物語	672
[[文学]]	擬古物語	47
[[文学]]	説話	137
[[文学]]	説話集	2
[[文学]]	歴史物語	24
[[文学]]	軍記物語	104
[[文学]]	鎌倉物語	14
[[文学]]	室町物語	330
[[文学]]	御伽草子	5
[[文学]]	江戸小説	7
[[文学]]	仮名草子	323
[[文学]]	浮世草子	855
[[文学]]	読本	872
[[文学]]	滑稽本	577
[[文学]]	洒落本	601
[[文学]]	人情本	290
[[文学]]	草雙紙	33
[[文学]]	赤本	159
[[文学]]	黒本	1066
[[文学]]	青本	657
[[文学]]	黄表紙	1927
[[文学]]	合巻	2406
[[文学]]	艶本	1172
[[文学]]	戯文	121
[[文学]]	謎	1
[[文学]]	咄本	1088
[[文学]]	講談	4
[[文学]]	落語	1
[[文学]]	実録	1308
[[文学]]	小説(明治)	5
[[文学]]	隨筆	3443
[[文学]]	評論	13
[[文学]]	紀行	3176
[[文学]]	和文	293
[[文学]]	文集	97
[[文学]]	書簡	2357
[[文学]]	書簡集	139
[[文学]]	書簡文苑	1
[[文学]]	漢文	673
[[文学]]	漢文集	4
[[文学]]	漢詩	5788
[[文学]]	漢詩集	10
[[文学]]	漢詩文	3455
[[文学]]	詩文	24
[[文学]]	詩文集	19
[[文学]]	狂詩	141
[[文学]]	狂文	106
[[文学]]	狂詩文	1
[[文学]]	詩歌	41
[[文学]]	詩歌文	1
[[文学]]	詩歌集	5
[[文学]]	詩集	3
[[文学]]	詩歌連俳集	1 ←詩歌連俳集和歌
[[文学]]	和歌	10863 ←詩歌連俳集和歌
[[文学]]	歌学	2534
[[文学]]	歌論	10
[[文学]]	歌集	2443
[[文学]]	歌文	127
[[文学]]	歌文集	72
[[文学]]	家集	3
[[文学]]	歌合	1236
[[文学]]	連歌	4223
[[文学]]	連歌論	299
[[文学]]	聯句	347
[[文学]]	俳諧	16533
[[文学]]	俳論	9
[[文学]]	連句	6
[[文学]]	俳文	34
[[文学]]	雑俳	1576
[[文学]]	川柳	47
[[文学]]	狂歌	2227
[[文学]]	狂句	8
[[文学]]	歌謡	2266
[[文学]]	神楽歌	1
[[文学]]	俗曲	2
[[文学]]	俗謡	3
[[文学]]	朗詠	1 ←朗詠寝曲
[[文学]]	寝曲	9 ←朗詠寝曲
[[文学]]	平曲	92
		79572

		件数
【音楽・演劇】	音楽	542
【音楽・演劇】	民謡	2
【音楽・演劇】	箏曲	20
【音楽・演劇】	楽器	89
【音楽・演劇】	楽器／琴	2
【音楽・演劇】	楽器／太鼓	4
【音楽・演劇】	三味線	2
【音楽・演劇】	尺八	1
【音楽・演劇】	楽譜	71
【音楽・演劇】	舞踊	33
【音楽・演劇】	演劇	328
【音楽・演劇】	芸能	147
【音楽・演劇】	神楽	228
【音楽・演劇】	雅楽	1653
【音楽・演劇】	田楽	1
【音楽・演劇】	幸若舞曲	74
【音楽・演劇】	能	945
【音楽・演劇】	能の本	2389
【音楽・演劇】	謡曲	2942
【音楽・演劇】	能狂言	529
【音楽・演劇】	狂言	456
【音楽・演劇】	間狂言	6
【音楽・演劇】	浄瑠璃	5311
【音楽・演劇】	浄瑠璃評判記	23
【音楽・演劇】	奥浄瑠璃	54
【音楽・演劇】	義太夫	1030
【音楽・演劇】	大薩摩	61
【音楽・演劇】	半太夫	174
【音楽・演劇】	河東	193
【音楽・演劇】	常磐津	788
【音楽・演劇】	宮本	500
【音楽・演劇】	清元	286
【音楽・演劇】	新内	85
【音楽・演劇】	一中	267
【音楽・演劇】	蘭八	0*
【音楽・演劇】	正伝	56
【音楽・演劇】	繁太夫	6
【音楽・演劇】	宮古路	300
【音楽・演劇】	説経	90
【音楽・演劇】	長唄	1817
【音楽・演劇】	歌舞伎	206
【音楽・演劇】	狂言本	282
【音楽・演劇】	脚本	5042
【音楽・演劇】	絵入根本	74
【音楽・演劇】	番附	67
【音楽・演劇】	絵本番附	788
【音楽・演劇】	絵本番附／ 摺芝居	125
【音楽・演劇】	絵本番附／ からくり	1
【音楽・演劇】	絵本番附／ 見せ物	1
【音楽・演劇】	鬮石	144
【音楽・演劇】	役者評判記	512
		28747

		件数
【地理】	地理	236
【地理】	外国地理	1
【地理】	地誌	7121
【地理】	案内記	6
【地理】	細見記	1
【地理】	評判記	445
【地理】	外国地誌	257
【地理】	漂流記	1009
【地理】	見聞記	143
【地理】	探検記	5
【地理】	地図	1057
【地理】	外国地図	4
【地理】	絵図	258
		10543

		件数
【経済】	経済	3420
【経済】	度量衡	189
【経済】	貨幣	512
		4121

		件数
【医学】	医学	10525
【医学】	薬物	1807
【医学】	本草	1809
【医学】	鍼灸	476
		14617

		件数
【政治・法制(附故実)】	政治	2505
【政治・法制(附故実)】	法制	6842
【政治・法制(附故実)】	制度	50
【政治・法制(附故実)】	外交	1889
【政治・法制(附故実)】	外事	1470
【政治・法制(附故実)】	軍事	1097
【政治・法制(附故実)】	海防	763
【政治・法制(附故実)】	消防	203
【政治・法制(附故実)】	防火	2
【政治・法制(附故実)】	訴訟	333
【政治・法制(附故実)】	官職	18
【政治・法制(附故実)】	補任	828
【政治・法制(附故実)】	名鑑	2902
【政治・法制(附故実)】	武鑑	106
【政治・法制(附故実)】	故実	1
【政治・法制(附故実)】	有職故実	8748
【政治・法制(附故実)】	武家故実	4763
【政治・法制(附故実)】	儀式	11
【政治・法制(附故実)】	祭礼	14
【政治・法制(附故実)】	礼法	595
【政治・法制(附故実)】	年中行事	317
【政治・法制(附故実)】	調度	134
【政治・法制(附故実)】	服飾	181
【政治・法制(附故実)】	財政	434
【政治・法制(附故実)】	租税	489
		34695

		件数
【風俗・(生活)】	風俗	718
【風俗・(生活)】	伝説	29
【風俗・(生活)】	風説書	5
【風俗・(生活)】	怪談	28
【風俗・(生活)】	怪異	64
【風俗・(生活)】	奇談	9
【風俗・(生活)】	家事	49
【風俗・(生活)】	衣服	76
【風俗・(生活)】	裁縫	19
【風俗・(生活)】	手芸	9
【風俗・(生活)】	理容	17
【風俗・(生活)】	化粧	14
【風俗・(生活)】	飲食	195
【風俗・(生活)】	食物	5
【風俗・(生活)】	住居	25
【風俗・(生活)】	家具	14
【風俗・(生活)】	育児	14
【風俗・(生活)】	外国風俗	69
		1359

		件数
【教育】	教育	1013
【教育】	教訓	2252
【教育】	家訓	6
【教育】	格言	1
【教育】	心学	381
【教育】	往来物	3219
		6872

		件数
【理学】	理学	173
【理学】	数学	77
【理学】	和算	8809
【理学】	塵劫記	334
【理学】	珠算	13
【理学】	天文	1965
【理学】	曆法	9
【理学】	曆	7763
【理学】	氣象	85
【理学】	地質	7
【理学】	岩石	51
【理学】	物理	12
【理学】	化学	95
【理学】	工学	11
【理学】	博物	206
【理学】	鉱物	13
【理学】	生物	15
【理学】	動物	535
【理学】	植物	664
【理学】	魚介	208
		21045

		件数
【産業】	産業	121
【産業】	農業	692
【産業】	園芸	247
【産業】	畜産	56
【産業】	獣医	175
【産業】	蚕業	100
【産業】	林業	123
【産業】	水産	121
【産業】	漁業	155
【産業】	塩業	22
【産業】	鉱業	257
【産業】	鉱山	3
【産業】	鑛造	8
【産業】	工業	36
【産業】	土木	138
【産業】	測量	692
【産業】	治水	189
【産業】	建築	667
【産業】	築城	201
【産業】	城郭	372
【産業】	造船	221
【産業】	商業	482
【産業】	貿易	226
【産業】	交通	431
【産業】	海運	302
【産業】	船舶	10
【産業】	航海	187
【産業】	通信	21
【産業】	物産	366
【産業】	製紙	35
【産業】	醸造	108
【産業】	染織	366
		7130

		件数
【芸術】	芸術	36
【芸術】	美術	57
【芸術】	絵画	2309
【芸術】	図論	3
【芸術】	図案	287
【芸術】	絵巻	430
【芸術】	絵本	437
【芸術】	画帖	6
【芸術】	画譜	1
【芸術】	考古	295
【芸術】	印譜	17
【芸術】	金石文	655
【芸術】	拓本	3
【芸術】	印刷	10
【芸術】	工芸	90
【芸術】	金工	127
【芸術】	木工	27
【芸術】	漆工	66
【芸術】	陶磁	180
【芸術】	彫刻	10
【芸術】	書画	286
【芸術】	書道	2874
【芸術】	篆刻	2
【芸術】	文房具	56
		8264

		件数
【諸芸】	諸芸	10
【諸芸】	茶道	2474
【諸芸】	造園	28
【諸芸】	庭園	261
【諸芸】	盆石	83
【諸芸】	花道	1001
【諸芸】	香道	915
【諸芸】	占卜	1242
【諸芸】	相法	270
【諸芸】	陰陽道	44
【諸芸】	易学	19
【諸芸】	料理	824
【諸芸】	玩具	11
【諸芸】	遊樂	228
【諸芸】	狩猟	14
【諸芸】	釣魚	11
【諸芸】	放鷹	1026
【諸芸】	鶴飼	3
【諸芸】	犬追物	3
【諸芸】	鬮鷄	1
【諸芸】	相撲	122
【諸芸】	打毬	30
【諸芸】	蹴鞠	322
【諸芸】	遊戯	432
【諸芸】	囲碁	235
【諸芸】	聯珠	2
【諸芸】	将棋	407
		10018

		件数
【(武学)・武術】	武術	431
【(武学)・武術】	兵法	4413
【(武学)・武術】	武具	1598
【(武学)・武術】	刀剣	930
【(武学)・武術】	薙刀	21
【(武学)・武術】	馬具	272
【(武学)・武術】	劍術	590
【(武学)・武術】	槍術	307
【(武学)・武術】	弓術	2074
【(武学)・武術】	馬術	1585
【(武学)・武術】	柔術	160
【(武学)・武術】	火術	355
【(武学)・武術】	砲術	1325
【(武学)・武術】	棒術	14
【(武学)・武術】	拳法	5
【(武学)・武術】	忍術	19
		14099

小分類の付された件数が多いもの順……文学はデータ数、細分化された項目数ともにトップ

No.	大分類	項目件数	件数/総件数	小分類件数計	1項目宛データ数
7	文学	80	19%	79,572	995
4	仏教	22	5%	71,403	3,246
9	歴史	29	7%	59,701	2,059
11	政治・法制	25	6%	34,695	1,388
8	音楽・演劇	51	12%	28,747	564
15	理学	20	5%	21,045	5,261
3	神祇	6	1%	19,484	3,247
16	医学	4	1%	14,617	457
2	学問・思想	10	2%	14,582	1,458
20	武学・武術	16	4%	14,099	34
10	地理	13	3%	10,543	811
19	諸芸	27	7%	10,018	626
18	芸術	24	6%	8,264	306
17	産業	32	8%	7,130	297
14	教育	6	1%	6,872	344
6	言語	16	4%	5,622	351
12	経済	3	1%	4,121	1,374
1	総記	10	2%	3,861	386
13	風俗・生活	18	4%	1,359	76
5	宗教	4	1%	720	180
※総計		416		416,455	1,173 ←平均

1項目宛データ数順……この値が大きいほど分野の細分化が不十分
逆に少なすぎると、採択数が不足していることになる

No.	大分類	項目件数	件数/総件数	小分類件数計	1項目宛データ数
15	理学	20	5%	21,045	5,261
3	神祇	6	1%	19,484	3,247
4	仏教	22	5%	71,403	3,246
9	歴史	29	7%	59,701	2,059
2	学問・思想	10	2%	14,582	1,458
11	政治・法制	25	6%	34,695	1,388
12	経済	3	1%	4,121	1,374
7	文学	80	19%	79,572	995
10	地理	13	3%	10,543	811
19	諸芸	27	7%	10,018	626
8	音楽・演劇	51	12%	28,747	564
16	医学	4	1%	14,617	457
1	総記	10	2%	3,861	386
6	言語	16	4%	5,622	351
14	教育	6	1%	6,872	344
18	芸術	24	6%	8,264	306
17	産業	32	8%	7,130	297
5	宗教	4	1%	720	180
13	風俗・生活	18	4%	1,359	76
20	武学・武術	16	4%	14,099	34
※総計		416		416,455	1,173 ←平均